

平成26年度事業報告書

平成26年12月に東京都では東京港の港湾計画を9年ぶりに改訂した東京港第8次改訂港湾計画を策定した。

本改訂計画では、10年後を見据えた東京港の目指すべき姿として、港湾機能と都市機能が有機的に結合した「世界に誇る都市型総合港湾・東京港」の創造を目標に、港湾機能強化や交通インフラの拡充をはじめとした総合的な物流の効率化の推進はもとより、観光、環境、オリンピック・パラリンピック、安全・安心という5つの視点から施策が系統化されている。

また、本改訂計画は、平成26年1月に東京港振興促進協議会において策定された「第4次アクションプラン」に盛り込まれている新たなコンテナふ頭の整備などによる港湾物流機能の強化、東京港臨港道路南北線の整備などの交通インフラの充実、内航船や鉄道との連携による国内ハブ機能の強化などの内容、方針と軌を一にするものとなっている。

本年度は、「第4次アクションプラン」の実現に向け、官民一体となって国際競争力のある使いやすい港づくりに向けた取り組みを進めた。

客船誘致活動としては、昨年引き続き東京港へ入港した東京港史上最大の大型クルーズ客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」をはじめとする国内外のクルーズ客船に対し入出港の歓送迎行事を実施したほか、港湾管理者などとの共催により「東京クルーズセミナー」を開催した。

また、東京港第8次改訂港湾計画が当協会会員に密接に関係していることから、会員向け説明会を開催し、最新情報の提供に努めた。

このほか、東京港振興使節団の海外派遣をはじめ、東京港見学会の実施、各種資料の発行、東京みなと館の運営など東京港のPR活動を例年通り展開するとともに、協会の財政基盤の確立のための収益事業を実施した。

1. 港湾振興事業

(1) 東京港振興促進協議会

平成26年1月に策定された「第4次アクションプラン」の課題実現に向け、より国際競争力のある使いやすい港づくりに向けた取り組みを進めた。

本年度は、2月24日に幹事会及び総合検討部会を開催し、「第4次アクションプラン」への取り組み状況や東京都による東京港第8次改訂港湾計画の策定、放置車両（台切りシャーシー）対策の実施について報告を行った。

(2) 船舶貨物誘致活動の推進

東京港振興使節団として海外への使節団を派遣し、ポートセールス活動を展開した。

派遣期間 1月25日から2月1日までの8日間

派遣先 ドイツ、オランダ、スペイン

活動内容 現地の港湾管理者や物流会社等を訪問し、東京港の利用促進に向けたポートセールス活動を行うとともに、港湾経営に関する意見交換や港湾施設及び物流施設の視察など港湾情報の収集を行った。

また、ロッテルダム港において姉妹港締結25周年の覚書を調印した。

(3) 客船誘致活動の推進

① 入出港歓送迎行事等の実施

本年度も昨年に引き続き東京港へ入港した東京港史上最大の大型客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」をはじめ国内外のクルーズ客船に対して延べ15回の入出港歓送迎行事を行い、記念品を贈呈するなどの誘致活動を行った。

また、都民を対象とした低廉な価格設定による「都民クルーズ」に協力し、東アジアを巡るクルーズなど4回のクルーズを支援するとともに、「全国クルーズ客船誘致連絡会」に参加し、今後の客船の動向など効果的な受け入れのための情報を収集した。

② 東京クルーズセミナーの開催

東京都のクルーズ客船誘致に対する取り組みを周知し、伊豆・小笠原諸島の観光についての最新情報を提供するとともに、東京港への要望などについてヒアリングを行うため、昨年度に引き続きクルーズ客船運航事業者や旅行会社などの業界関係者を対象にセミナーを開催した。

開催日 2月10日

開催場所 帝国ホテル

主催者 東京都、東京港埠頭株式会社、東京都港湾振興協会

参加者 約65名

③ 東京クルーズ客船プロジェクトチームへの参加

東京都港湾局、東京港埠頭株式会社及び当協会によるプロジェクトチームに参加し、クルーズ客船の東京港誘致に向けた取り組みについて検討を行った。

(4) 荷主などとの懇談会の開催

東京港の利用促進に向けた取り組みとして、荷主・フォワーダーなどを対象に、東京港の使いやすさ・集荷への取り組みを紹介し、海上から港の現場を見学する場を提供するとともに、荷主などの意見・要望を把握し、新たな施策展開に向けた検討に資するため、「東京港のつどい」を開催した。

開催日 2月9日

主催者 東京都、東京港埠頭株式会社、東京都港湾振興協会

参加者 約160名

(5) 社会科見学船による東京港案内の実施

東京都との共同事業として、船の提供は都が、募集・案内業務は当協会が担当し、都内の小学4年生から6年生及び中学生を対象に、海上バスによる東京港案内を実施し、東京

港の役割や都民生活とのかかわりなどを説明した。

70航海、171団体、12,898名の乗船者に対して案内を実施した。

(6) 都民を対象とした東京港見学会の実施

広く都民に東京港をPRするため、新東京丸による東京港案内と東京みなと館の見学を行う東京港見学会を実施した。

この見学会は公募により参加者を募集し実施しているが、平均で約20倍程度と多数の応募があり、都民に対する東京港のPR活動として定着している。

12回実施し合計610名の参加を得た。

(7) 東京港夜景観賞ツアーの実施

広く都民に東京港の魅力をPRするため、公募により参加者を募集し、普段は見る機会の少ない東京港の夜景を東京みなと館及び海上バスから観賞するツアーを実施した。

実施日 11月20日、28日の2回

参加者総数 424名（応募倍率42.2倍）

(8) 東京・川崎・横浜3港クルーズの実施

昨年度に引き続き、公募により募集した都民を対象に、東京港、川崎港、横浜港の京浜3港を巡るクルーズを実施した。

貨客船により東京ゲートブリッジや港湾施設など、東京港及びその周辺の状況を海上から見学し、広く都民に東京港をはじめ京浜三港をPRした。

実施日 9月30日

参加者数 320名（応募倍率31.8倍）

(9) 東京港及び臨海副都心の観光案内事業の実施

東京港及び臨海副都心を、都民はもとより国内外の多くの人々に親しまれる東京の観光スポットとしてさらに発展させるため、日の出ふ頭海上バス発着所に観光案内掲示板及びパンフレットスタンドなどを設置し、各種博物館などの施設案内や港湾局事業をはじめとする東京都のお知らせやイベントなどの情報提供に努めた。

なお、英語や中国語、韓国語などの外国語のパンフレットを配備するなど外国人に対するPR活動の充実を図った。

2. 情報提供等事業

(1) 会誌「東京港」及び東京港関係資料などの発行・配布・販売

会誌「東京港」について、内容の充実を図るためのアンケートを実施するとともに、表紙デザインや誌面構成を変更し、より読みやすい冊子となるようリニューアルを行った。

- ① 会誌「東京港」（年４回発行）
- ② 「東京港港湾統計月報」
- ③ 「東京港ハンドブック」（和文・英文）
- ④ 「東京港便覧」

(2) 新東京丸及びバスによる東京港見学会の実施

会員を対象に、東京港及び東京みなと館などの見学会を実施した。

- ① 新東京丸による東京港見学会（１２月、３回実施） 合計１３９名参加
- ② バスによる東京港見学会（４月及び１０月、３回実施） 合計７７名参加

(3) 東京・川崎・横浜３港クルーズの実施

昨年度に引き続き、会員を対象として、貨客船により海上から東京港、川崎港、横浜港の京浜三港の現状などについて見学するクルーズを実施した。（都民を対象としたクルーズと合同実施）

実 施 日 ９月３０日

参 加 者 数 ２４８名

(4) 東京都港湾局等事業説明会及び講演会

東京都港湾局及び東京港埠頭株式会社の平成２６年度事業についての説明会と東京都港湾局技監による東京港の最新のトピックスをテーマとした講演会を開催した。

開 催 日 ４月１０日

開催場所 経団連会館

参 加 者 ２２９名

<事業説明会>

- ① 「平成２６年度 東京都港湾局事業について」

東京都港湾局総務部企画計理課長 深井 稔 氏

- ② 「平成２６年度 東京港埠頭株式会社事業について」

東京港埠頭株式会社総務部経理課長 安川 一生 氏

<講演会>

「東京港の最近の話題」

東京都港湾局技監（オリンピック・パラリンピック準備局技監兼務）

前田 宏 氏

(5) 港湾事業講習会及び東京都港湾整備振興大会の開催

港湾に関する講習会及び港湾整備事業の拡大強化を図るための集会を次のとおり実施した。

開 催 日 ７月９日

開催場所 経団連会館

参加者 225名

<港湾事業講習会>

アセアン新興国の経済成長が東京港に及ぼす影響などについての講演会を開催

「アセアン新興国の経済成長と東京港」

東海大学海洋学部教授

石原 伸志 氏

<東京都港湾整備振興大会>

港湾整備事業の拡大強化を図るため、都議会議員をはじめ、島しょの各町村長、東京都港湾局長ほか関係者の臨席のもと、東京都の港湾・海岸整備の振興に対する要望に関する決議文を採択し、関係機関への要望活動を実施

(6) 東京港第8次改訂港湾計画説明会

平成26年9月に開催された東京都港湾審議会において東京港第8次改訂港湾計画が答申されたことを受け、会員を対象とした策定の経緯や計画の内容についての説明会を開催した。

開催日 10月6日

開催場所 海運クラブ

参加者 177名

3. 東京みなと祭事業

東京みなと祭協議会事務局として、5月24日・25日の両日に、晴海客船ターミナルを中心に第66回東京みなと祭を開催した。

恒例行事の「東京ポートバザール」や「東京港クルーズ」、「珍しい船の一般公開」などをはじめ、東京みなと館の出張ブースや、東京港内の穴場のビューポイントをバスで巡り、隠れた東京港の魅力をPRするツアーなど、東京港のPRを一層図る多彩な行事を実施した。

また、共催行事としてドラゴンボート大会を実施したほか、協賛行事として、水の消防ページェントなどが実施された。

共催行事を含めた総来場者数は88,000人にのぼった。

5月20日には東京港開港記念行事として、東京港港湾功労者表彰式を芝浦サービスセンターにおいて開催し、港湾功労者17名に対し都知事感謝状と記念品を贈呈した。

表彰式に引き続き、東京港開港記念祝賀会実行委員会事務局として東京港開港記念祝賀会を開催し、256名の出席者があった。

4. 広報関連受託事業

東京都から委託を受けて、次の事業を東京港PR活動として実施した。

(1) 初入港船等の歓迎

初入港船、外国客船、国内クルーズ客船、コンテナ船などに、83回の歓迎行事を実施した。

また、外国客船については、英文等のガイドマップを乗客、乗員に配布し、船内または客船ターミナル内にて観光ボランティアを活用したインフォメーションカウンターを開設するなど乗客、乗員に対するサービスの向上に努めた。

(2) 新東京丸による東京港案内

国内の港湾関係者のほか、自治会、町会、婦人会などを対象に、視察船「新東京丸」による東京港案内を実施し、東京港の将来計画や各種港湾施設の説明を通じ、東京港の機能や都民生活とのかかわりなどの理解を図った。

257航海、816団体、11,959名に対して案内を実施した。

5. 助成事業

公益財団法人日本財団の助成事業として、小中高生及びPTAなどの団体を参加対象とした海上バスによる東京港見学及び東京みなと館の見学研修会を実施し、港の施設や港湾の果たす役割などを説明し、海事思想の普及に努めた。

30回実施し、81団体、5,892名の参加を得た。

6. 東京みなと館事業

東京都により策定された第8次改訂港湾計画にあわせて展示パネルを改修するなど、展示内容を現況に則したものにするため、昨年度に引き続き各種展示物を改修したほか、集客を図るため、次のとおり特別企画展などを開催した。

① 写真展「東京港を彩る客船たち」

期間 7月29日～11月2日

東京港に寄港する代表的な客船を紹介し、客船の魅力を伝える写真展を開催

② 写真展「海上輸送のエキスパート 専用船のいろいろ」

期間 1月27日～5月17日

重要な輸送手段である海上輸送を担う多彩な専用船にスポットを当て、私たちの暮らしと港とのつながりを紹介する写真展を開催

③ 「東京みなと祭」への参加

5月24日・25日の両日に開催された「東京みなと祭」へ「出張 東京みなと館」

として出展し、客船や貨物船などの商船模型を展示したほか、東京みなと館所蔵の映像や記録写真を上映・展示

入館者は都民をはじめ、国内外からの行政視察、港湾関連企業グループ、小中学生の社会科見学など多岐にわたり、平成27年1月には開館以来の入館者数が60万人に達した。平成26年度の入館者数は30,815名であった。

7. 収益事業

- (1) 当協会が設置した駐車場、自動販売機などの営業活動を実施した。
- (2) 「東京港ハンドブック」、「東京港便覧」などの東京港関係資料の販売を行った。